

運動部活動における活動意識に関する研究—中学校バスケットボール部対象に—

A study on students' consciousness of participating in Basketball club activities in junior high school

1K05B036

太田 匠

指導教員

主査 倉石平先生

副査 吉永武史先生

[緒言]

本研究では早稲田大学に入学して、いろいろな人と出会ったことで多くのことを学び、また人間としての成長にも影響を及ぼしたと感じている。では、何が成長に影響を及ぼしたのか、そのことを知ろうとすることが本研究をしようとしたきっかけとなった。その中で大きな動機になったのは、長年行ってきたバスケットボールからどんな影響力があったのか考えたかったからである。昨年の夏に母校である長崎県佐世保市の早岐中学校にて講演をさせていただき、生徒が将来について考えていないことによって、部活動が生徒にとってどのような影響を及ぼすのかと疑問を抱いたことが、活動調査の目的となった。

[方法]

質問紙調査法(バスケットボール部に所属する男子生徒への調査)を行った。早岐中学校のバスケットボール部顧問に郵送して、他校に振り分けてもらうようお願いした。生徒が回答後に、同顧問からすべての質問紙を郵送して頂いた。調査の対象は長崎県佐世保市の中学校 5 校である、バスケットボールに所属している 112 名男子生徒である。回答率は 88.9%(112/126)であった。主な調査内容は、1)競技への関心や積極性について(2項目)、2)主体的か嫌々かどうかについて(2項目)、3)継続希望について(2項目)、4)モチベーションについて(2項目)、5)競技への愛着について(3項目)である。

[結果]

上記の 1)に関しては、部活動に対して、意欲的に取り組む生徒が非常に多く、その目的も「上手になりたい」「チームみんなで勝ちたい」などを求める生徒が多く、部活動に対してポジティブに考えているようである。2)に関しては、「勝ちたい」という気持ちが強く、競技に対しての意欲も感じられた。だが、「観る」ということに関しては関心度が欠けている傾向がある。3)に関しては、ほとんどの生徒が将来のことを考えていないことが多い。また中には将来の夢が決まっていて継続を希望していない生徒もいた。現段階では継続希望について考えることが難しいのではないかと感じることもできた。4)に関しては、スポーツクラブについても行きたいという生徒にはモチベーションの高さを感じられ、自主練習を行ったほうが良いと考える生徒がほとんどであった。5)に関しては、競技への愛着を持っている人と持っていない人がいるという調査結果になったと言える。愛着という点から考えると難しいが、現段階での状況からとらえると前向きな結果になったのではないかと感じることもできた。

[考察]

本研究における「中学校のバスケットボール部に関する意識調査」では生徒が部活動に対して、どのような意識で取り組んでいるかを表すことができた。調査からは部活動が生徒たちにとってどういった目的で行われているかということが本研究の始まりであり、今後どういった目的で部活動に取り組むかによっては、学校生活での意識も変わるのではないかと感じた。義務教育である中学校

での部活動が生徒にどう影響があるかということに関しては、部活動から社会性を身につけるといった生徒が多く、教員が学校生活で要求していることを、部活動というポジションからも収穫していた。第4章において、5 つに分類したのは部活動がクラブチームもしくはそれ以外の練習場所に対して、部活動の役割、つまり学校生活での部活が生徒にどう影響されているかということである。また、練習に取り組む姿勢や部活においてのあり方を

生徒自身が求めていると感じた。本研究は生徒に対してのみ調査を行ったため、生徒の主観的な意見に留まり、それをとりまく客観的な視点に対する部分まで至らなかったが、今後は、指導者側と生徒側の視点による指導者が部活に対する客観的な資料を得ることにより、総合的に研究を進めていく必要がある。また、バスケットボールに関わらずあらゆる部活動が「部活動」の規模を超えて、発展・確立していくことが必要である。